

## 長い、複雑な関係正常化交渉始まる

9月11日第1回米政権委員会がハバナにて開催されました。これは、8月14日に米国のケリー国務長官が訪米した際に、合意されたものです。これにて、長い複雑なものになると予想される関係正常化交渉が始まったこととなります。



グラマン紙より。左側が米国代表団、右側がキューバ代表団

米国側は、エドワード・アレックス・リー国務省西半球担当副次官補が、キューバ側は、ホセフィーナ・ビダル・フェレイロ外務省米国局長が代表として出席し、会談が行われました。会談は、「専門的、相互尊重、建設的雰囲気」（キューバ側発表）、「全面的で、率直で、礼儀正しい態度」（米国側発表）で行われました。

まず、今後の会議のスケジュールについて、向こう数カ月会議を開催する、11月にワシントンで第2回会議を開催することで合意しました。

両国は、協議のテーマとして、テーマの性格から、次の三つのグループに分けて段階的に議論することで合意しました。

- ① まず、第一段階として、環境、自然災害の防止、医療、民間航空、移民、通信、インターネット、郵便、麻薬、国際犯罪人引き渡しなど、相互の利益となる新しい分野の協力の方式の設定を話し合う。
- ② さらに進展した段階として、人身売買、人権、気候変動、流行病、世界的流行病、世界の健康に対する脅威など相互に関心があるテーマを議題とする。
- ③ 第3段階として、50年にわたる米国政府の政策によってもたらされたキューバ国民の人的・経済的被害の補償（キューバ側計算では3000億ドル以上）、キューバにより革命

後国有化された米国資産の補償（一般に 80 億ドルといわれています）、商標、特許の保護など、両国関係の長期の懸案の問題を議題とする。

なお、キューバ側は、経済封鎖の解除が関係正常化に必須であり、不法に占拠されているグアンタナモ海軍基地の返還、キューバ向けラジオ・テレビ放送の停止、キューバ国内の不安定化、攪乱行為計画の停止を強調しましたが、これらは、米国により一方的に実施されているものであり、議題に載せることは要求しませんでした。

また、この会議では、1966 年のキューバ人地位調整法(米国領到着のキューバ人のみ滞在特権を与える法律)については議題にも乗せられず、キューバからの即時廃棄の要求がなかったことが注目されます。

長い、複雑な関係正常化過程が始まったこととなります。世界一の大国米国が、小国キューバ（GDP 比 236 対 1、人口 32 対 1、通常兵力 36 対 1、核兵器保有国対非核保有国で、ゴリアテ対ダビデの戦いに比定されます）との交渉で、対等平等、互惠、内部問題不干渉、平和共存の原則に立って交渉が行えるか、米国外交の試金石となりそうです。

(2015 年 9 月 13 日 新藤通弘)